

ハイサイ沖縄

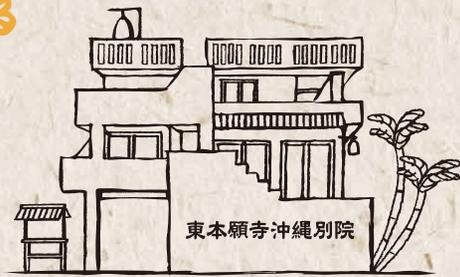
9

Sep. | 2022
沖縄開教本部通信
vol.101

※「ハイサイ」…沖縄の言葉で「こんにちは」のこと

「沖縄と日の丸」—知花昌一氏インタビュー—

- 沖縄はいま! 「沖縄県全戦没者追悼集会」
- おすすめの一冊!
- コラム 「退職に際して」 田代 賢治



「沖縄と日の丸」—知花昌一氏インタビュー—

① アメリカ世と日の丸

知

花昌一さんは2011年に大谷派教師の資格を得て、沖縄県読谷村の自宅近くで真宗大谷派沖縄教化拠点「何我寺(ぬーがじ)」で教化活動を続けている。87年に沖縄で開催された国体で、「日の丸」が事前協議と異なる形で掲げられたことに抗議し、その旗に火を付けた。本年が沖縄「本土復帰」50年の節目を迎えるに当たり、「復帰」への思いを、「日の丸」との関りと重ねてお話を聞いた。

—はじめて「日の丸」を意識したのはいつですか。

僕は1948年生まれで、はじめて「日の丸」を意識したのは東京オリンピック、高校1年生でした。沿道で日の丸を振りながら聖火ランナーを迎えました。当時は「復帰運動」の真ただ中で、「祖国復帰」とまで言い「日の丸」がそのシンボルでした。なぜならそれだけアメリカの圧政が制度的にひどかったからです。琉球政府の主席はアメリカの任命する傀儡で、法律も全てアメリカ

の支配下にありました。当時の経済は、僕は鉄工所の溶接工だったんだけど、給料は47ドルでした。琉球政府主席が350〜360ドルの時に、米兵は300ドルです。だから彼らはお金持ちでやりたい放題やっていた。

ちょうどベトナム戦争が始まっていたから、沖縄から戦地に向かうんですよ。ところが米軍は負ける。負けるということは殺されるということです。死ぬかもしれないという20〜40歳代の金をいっぱい持っている若い米兵は、女性を抱いてから戦地に行ったんですよ。だから基地の下町、嘉手納のゲート通りとか、コザの町には売春地帯があったんです。私の父は米軍基地内のカーペンター(大工)だったので、自宅近くに廃材で貸家を作っていた。そこに本島北部から来た女性達が住んでいた。僕は小さかったから可愛がられていたんだけど、そこに夕方になると米兵がオートバイに乗ってやってきて泊まっていくんだ。だいたい



一人の女性を「囲う」のに50ドルぐらい。その女性たちは別の場所働いていることにして、親に仕送りをする。そういう現実を見てきたからその不条理さ、なんでそうなっているのかを知ると頭にくるわけですよ。悔しさを募らしてきたわけ。

そんな中、東京オリンピック(1964年)が開催されるんです。米軍の命令で日本の「国歌」「国旗」が禁止され、違反者は処罰される時代です。だから東京オリンピックで「日の丸」を振ることは、米軍の支配に対する抵抗でもあったわけ。オリンピックではみんな旗を持って振るから逮捕できないわけ。

—知花さんは笑いながら当時の日の丸があるといっせよ見せてくれた。

(つづく)

【沖縄はいま！】 「沖縄県全戦没者 追悼集会」

沖縄は今年、住民を巻き込み多くの命や文化遺産が奪われた沖縄戦から77年。そしてウクライナでロシアによる軍事侵攻が続く中、「慰霊の日」(6月23日)を迎えた。県主催の「沖縄県全戦没者追悼集会」が糸満市の平和祈念公園で開催された。玉城デニー知事は「忌まわ



しい戦争の記憶を風化させないため沖縄戦の実相や教訓を次の世代

に正しく伝えていく」と強調し「激動が続く世界情勢の中で、今こそ『平和の礎』に込められた平和と命の尊さを大切にする『沖縄の心、ちむぐくる(肝心)』を国境を越えて世界に発信することが重要だ」などと、うちなーグチや英語をまじえ平和宣言の中で不戦の願いを

発信した。岸田首相は「平和の礎に刻まれた戦没者の無念と遺族の悲しみを思うとき胸ふさがる思いを禁じることができない。今日私たちの享受している平和と繁栄は、命を落とされた方々の尊い犠牲と、沖縄の歩んだ、苦難の歴史の上にある。深く胸に刻み、静かに頭を垂れたい」とあいさつした。
戦没者の名前が刻まれている平和の礎の前では親族などの有縁の方が手を合わせて平和を願う姿もあった。

【おすすめの二冊！】

沖縄を観光すると京都などとは違い、寺院や仏教関連史跡を観光することはほとんどありません。また沖縄の人々の認識としても、仏教とは縁遠いものです。

ところが、歴史的にみると琉球にも仏教が広く普及した時代もありました。本著は琉球・沖縄における仏教を通史として読むことができる唯一の一冊です。特に後半部分では最新の研究が反映されてお



『琉球沖縄仏教史』
(知名定寛著 榕樹書林
2021年10月刊)

り、琉球における浄土真宗の歴史、禁教下における真宗門徒の動向について知ることができます。
研究書のような体裁ですが、自身は一般向けで、ドラマチックで読みやすい本となっています。

【報告】

首里城再建の募金終了のお知らせ

2019年1月に焼失した、沖縄の歴史と文化の独自性を象徴する首里城の再建に向けての募金をお願いしましたところ、総額2,032,575円の募金をいただき、全額、沖縄県の担当課へお渡ししました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

ーコラムー 「退職に際して」

沖縄別院・開教本部にてご縁を頂きました皆さまに、心から厚く御礼申し上げます。
古希を迎え、体力・気力ともに衰えを感じ、この度、職を辞するお許しをいただきました。この4年間、大変お世話になりましたこと、決して忘れるものではありません。

赴任して、これからという矢先、コロナで出鼻をくじかれ、行財政改革でダブルパンチを喰らい、結局は何も出来ずに去ることになりました。それは、沖縄と本土とを結ぶ「琉球・沖縄同朋懇談会」を手がかりに、我が宗門の信仰課題とすべく動き出そうとした矢先でありました。誠に痛恨の極みではありますが、幸いにも後事を託すに相応しい人が既に居つてくださったことが、何よりの救いです。

身を置かなければ分からないことを、確かに学ばせて戴きました。長年にわたって、ひとえに本土側による抑圧と差別、無関心と無理解、無頓着が沖縄の人たちを悲しませ、苦しませ続けてきたことを知りました。本土の人間として慙愧の他ありません。

今後は何ほどのことも出来ませんが、本土側こそが変わらなければならぬことを訴え続けたいと思えます。我が宗門が「同朋社会の顕現(美現)」を標榜するかぎり、沖縄がその試金石となり、また、沖縄を除いては有り得ないことを、宗門内外に伝えることをこれからの私の使命であり責任と致します。

沖縄別院前輪番 田代賢治